

# ガイドライン内 事前協議チェックリスト (興野町住宅地区)

20200127

Ver.B.1

【様式B】

記入日	
計画名	

項目		配慮した内容	図面番号	照 合
周辺地域と安快に適する景観	歩行者空間	安全な歩行者空間の創出と、地域と繋がる沿道景観を形成【16頁】		<input type="checkbox"/>
		散策途中で休憩できるベンチ等により快適な憩いの空間を形成【16頁】		<input type="checkbox"/>
		イチョウ並木【都計道】・公共公益施設ゾーンの歩行者空間には、植栽樹を利用したベンチ等を設置し、憩いの空間を創出【17頁】		<input type="checkbox"/>
	公園・広場	新たな広場の整備や、既存の広場活用により地域に開放された集いの広場を形成【17頁】		<input type="checkbox"/>
		長期活用住宅ゾーンでは、既存樹木を活かし、各広場に憩いの場、交流の場、防災に寄与する場といったコンセプトを持たせ、地域に開かれた広場に改修【17頁】		<input type="checkbox"/>
	建替え住宅ゾーンの整備に併せ、団地内外の誰もが利用しやすいオープンな設えとし、地域の人が集える広場を創出【17頁】		<input type="checkbox"/>	
周辺地域と調和した建物景観	建物配置	壁面の位置は、道路境界線より後退させ、歩行者空間への圧迫感軽減に努める【19頁】		<input type="checkbox"/>
		建物の配置は、道路から距離をとるなど、緩やかな際の処理を施す【19頁】		<input type="checkbox"/>
		建替え住宅ゾーン東側境界の低層部は壁面を4m以上後退し高さを抑える。高層部は10m以上壁面を後退し、圧迫感を低減【19頁】		<input type="checkbox"/>
		建替え住宅ゾーン北側境界の低層部は、壁面を10m以上後退し戸建住宅と調和した建物高さに配慮。高層部は大きく壁面後退し、圧迫感や日影の影響を低減【19頁】		<input type="checkbox"/>
	建物高さ	建物の高さは、景観・日影上周辺地域への影響などに十分に配慮【19頁】		<input type="checkbox"/>
		スカイラインは、周囲の見え方や視線などに配慮して、樹木を適宜配置し、周囲に対する建物の圧迫感を緩和して周辺地域と調和を図る【19頁】		<input type="checkbox"/>
	建物デザイン	建替え住宅ゾーンは、周辺への圧迫感を抑え落ち着きのある建物デザインにより、近景・中景・遠景に配慮した変化と調和のある景観を形成【20頁】		<input type="checkbox"/>

	建物低層部のデザイン	タイルなどの材料を効果的に使用し、上質できめ細かいデザインとする【20頁】		<input type="checkbox"/>
		並木との調和に配慮した色彩を施すなど、周囲と調和したデザインとする【20頁】		<input type="checkbox"/>
		看板、広告物、館銘板などを設置する場合は、形状や色彩が外壁の質感やデザイン性を損なわないよう、適切に検討【20頁】		<input type="checkbox"/>
	建物中高層部のデザイン	色彩や素材の使い分けなどにより壁面を分節化し、単調さを回避するデザインとする【20頁】		<input type="checkbox"/>
		中間部は面が大きいいため、奇抜さを求めず、落ち着いたデザインとする【20頁】		<input type="checkbox"/>
		バルコニーなどから空調室外機や洗濯物などが見えないよう景観に配慮【20頁】		<input type="checkbox"/>
		周辺の圧迫感を軽減するスカイラインを形成【20頁】		<input type="checkbox"/>
	色彩や素材などにより軽やかさを創出し、極端に重さを感じさせるデザインにならないよう配慮【20頁】		<input type="checkbox"/>	
緑豊かな環境の継承と再生による潤いある街並み景観	沿道緑化	地域の資産であるイチョウ並木等を原則保存し、事業計画に支障がある場合は、移植や再生により潤いある歩行者空間を形成【16頁】		<input type="checkbox"/>
		新たに緑化を行う部分は、在来種などから樹種を選定し、地区にふさわしい緑の景観を形成【16頁】		<input type="checkbox"/>
		既存のイチョウ並木を活かし、ツリーサークル等を用いて保存【16頁】		<input type="checkbox"/>
	広場・公共公益施設の緑化	イチョウ並木やメタセコイヤ等の針葉樹林群を原則保存し、状況により、移植や再生による潤いのある広場を形成【17頁】		<input type="checkbox"/>
		<b>建替え住宅ゾーン・公共公益施設ゾーン</b> では、事業計画に応じた緑化をし、やすらぎと潤いある空間づくりに努める【17頁】		<input type="checkbox"/>
		新たに緑化する場合は、在来種などから樹種を選定し、地区にふさわしい緑の景観を形成【17頁】		<input type="checkbox"/>
	広場を介した歩行者ネットワーク整備については、既存樹木を保存しながら、緑道や地域に開かれた広場を整備【18頁】		<input type="checkbox"/>	

		都計道整備前には、樹木を保存しながら安全な歩行者空間を確保し、整備後には、都計道の並木と壁面後退部分の緑化による緑豊かな沿道景観となるよう努める【18頁】			<input type="checkbox"/>
屋外施設		駐車場などの屋外施設は、道路や広場からの見え方に配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
		駐車場は、生垣、植栽柵などで囲うなど景観に配慮した緑化に努める【21頁】			<input type="checkbox"/>
		ゴミ置場は、緑化により目隠しを行い、建物と一体感のあるデザインなどにより景観に配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
		案内板等のサイン計画は、景観に変化を与えるポイント的なデザインとし、周囲の建物との調和に配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
		案内板等のサイン計画は、多言語対応やピクトサインの採用などユニバーサルデザインに配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
照明		外部照明は、必要な照度が確保できるようバランスよく配置することで防犯性に配慮し、暖かみのある夜間景観づくりに努める【21頁】			<input type="checkbox"/>
		緑道や歩行空間は、庭園灯や埋込照明などを配置し、歩きやすくやすらぎのある照明計画に努める【21頁】			<input type="checkbox"/>
		省エネルギー化の推進のため、LED照明の導入などにより環境に配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
舗装		通路や歩道状空地は透水性のある舗装などとし、環境に配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
		街角や車の導入口は視認性を高める工夫を行い、ユニバーサルデザインに配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
		車いすやシルバーカーの通行に配慮したバリアフリー舗装【21頁】			<input type="checkbox"/>
屋外広告物	公社住宅	原則として屋外広告物を設置せず、案内板等を設置する場合は景観を阻害しないよう形態、規模、色彩、光源等に配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
	公共・公益施設	公園や住宅に面して屋外広告物を設置する場合は、景観を阻害しないよう形態、規模、色彩、光源等に配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
		屋上広告物は、著しく圧迫感を与える大きさを避け、周辺とのスカイラインの調和を考慮した高さとする【21頁】			<input type="checkbox"/>

		壁面広告物は、建築物の壁面とのバランスを考慮した大きさとし、ファサードデザインを著しく乱さないよう配置・形状に配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
		突出広告物は、沿道景観を乱さないように、形状を揃え、壁面線に沿って規則正しい配列となるよう配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
環境に配慮した取り組み		浸透枘等の設置や、透水性舗装の採用、敷地内の緑化など、自然環境を保全、再生する取り組みに努める【21頁】			<input type="checkbox"/>
		省エネルギーに配慮したエネルギー使用の合理化、太陽光発電設備やLED照明の導入など、自然エネルギーの活用、省エネルギー化の推進などに配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
		コンクリートの再生砕石の利用など、リサイクル材の活用や廃棄物の削減などに配慮【21頁】			<input type="checkbox"/>
色彩	公社住宅	<b>建替え住宅ゾーンと長期活用住宅ゾーン</b> の一体的な色彩を施し、団地全体の一体的な景観を形成【20頁】			<input type="checkbox"/>
		ベースカラーはYR系のアイボリー色と白とする【22頁】			<input type="checkbox"/>
		サブベースカラーは新たな温もりを創出する中彩度の暖色系とする【22頁】			<input type="checkbox"/>
		アクセントカラーはサブベースカラーより高明度、高彩度の色相とする【22頁】			<input type="checkbox"/>
		アクセントカラーは、建物のエントランスや低層部、街角などでアイストップとなる部分、工作物などにサインとして効果的に用いる【22頁】			<input type="checkbox"/>
	公共・公益施設	建物の規模に応じて「足立区景観計画における色彩基準Ⅰ～Ⅱ」を遵守【22頁】			<input type="checkbox"/>
		強調色として原色に近い高明度、高彩度の色を用いる場合は周辺環境に配慮【22頁】			<input type="checkbox"/>

(注) 太枠内のみ記入すること。

なお、ここに記載がない事項についてはガイドラインに沿って十分配慮すること。